

2/10 常盤塾議事録

参加者：常盤先生、片平先生、安梅さん、古川さん、古城さん、白井さん、松永さん、松山さん、松崎さん、丸山さん、今田さん

1. 一分間スピーチ

- ・古川さん「落語を聞きに行った。その場に応じた枕の話と本題のつながりがうまかった。」
- ・古城さん「テスラは車そのものというよりバッテリーの容量すごいから売れてる。」
- ・白井さん「ミツバチが少なくなってる。農薬や殺虫剤が知らない間に影響を及ぼしているが対策は取られていない。」
- ・松永さん「不安定からの発想という本について、名人職人の一つのことを突き詰める性質」
- ・松山さん「南方熊楠の展示会に行ってきた、アイデアを作り上げるプロセス」
- ・松崎さん「若者の間で韓国ブームがきている（その他世代は欧米）、トレンドの見せ方重要、どうアプローチするか」
- ・片平先生「イタリアは好きなことには24時間没頭する、人からやれって言われると怠ける。本当に好きなものを見つけること」
- ・丸山さん「パタゴニアのおばあちゃんが嫌いな人：なんでも貯めておく人、世界は動いている、すべての物は動いてないと死んでしまう。100もらったら101で誰かに返すことを繰り返すべき」
- ・今田さん「株がヘロヘロになっている理由、機会が勝手にやっているから人には止められない…？」
- ・安梅さん「ガーナ、発展のためには志をどう植え付けるかが大事。子供たちに教育をする必要があるなと感じた。」

2. 常盤先生のお話

(前回の復習) 擬

科学と技術の融合は普遍性がある⇔生活の中で見るとちぐはぐなものがある 例：芸術、人の心

いろいろな対比するものがある 二つの対立のもとに世界を見ている

近代は技術科学＝普遍に重きが置かれている、大事なものを忘れている

もどき；世のありよう

身近なところで起きている

企業で見ると技術改革の中にもどきが潜んでいる

例；iPhoneが出てきて世の中のあり方を変えている

製品開発はもどき競争なのではないか？世の中に広まっていくには必要

前の物より良くしようとする

もどきをもどきを刺激し新しいものを作ろうとする
まねをする中に心や技術をのせて前の物とは違うもの

「もどき」を語るには本物の存在が必要

本物と擬をセットで考えるべき

↳神様が作った造化物だと考えている

↳超人間的な能力、不思議なものを神と呼ぶ、そこに仮託して色んなものを説明している

ここ 50 年くらい「もどき」の発想が言葉を変えて流行っている

ニメティックリー バイオニメティクス

ルバイヤート ペルシャではやった詩の形式 四行詩

全体で見ても起承転結があり、文節で見ても起承転結がある 特に…

転；どんな問題も○と×で答えられるがよく考えて腑に落ちることはない

「○と×の間に虹がかかることもある」

結；「今日」は大きな流れの断片

→二分法自体が愚かなことではないか？

二者択一の不合理が我々の前に現れている

例；イギリスの EU 離脱

がんもどき 様々な地方で作られているが、作り方も様々

もどきとつくつと広がり生まれる、新しいものが生まれるのを後押しする

がんより美味しい

飛竜頭（ひりょうず）

3. 発表を受けての議論

- ・常盤先生；超越は新しい言葉で新しい議論を提供しただけで議論はそこで終わりにしたらいけない
- ・安梅さん；なぜは目標を立てることにつながり、これは生存に有利
- ・片平先生；会社はなぜを求めない
- ・松永さん；見えないものを塊で捉える力がある
- ・片平先生；発達の究極は何なのか？老年なのか？死なのか？
- ・安梅さん；発達は元々変化することを表していて必ずしも良い意味ではなかった
- ・古城さん；成長は量的な変化、発達は質的な変化ではないか？
- ・片平先生；いいもどきと悪いもどきがある（論文とか）、でも本人たちも知らないもどきの出てくるとこ

ろにドキドキがある。自分の琴線に触れるものを選ぶ

・古川さん；科学の世界は全部もどき

・常盤先生；学ぶことは真似ることだ＝もどき

・松崎さん；言葉を引用するときは確実に引用元を調べないといけない、根っこの部分が本質。今はいっぱいもどきを作れる時代で実際はやっている。

・松山さん；中国はもどき大国、本物が見えない。中国の奥には本物がある

・白井さん；中国進化している、「なぜ」を問い続けければ新しいものが生まれる可能性ある

・片平先生；中国でもどきを集めている商店があって、なかなか馬鹿にできない

・常盤先生；中国はもどき競争が盛んということ

(・古城さん；いま最もホットな擬は仮想通貨？取引所というよりもはや賭場

・丸山さん；ビットコインの説明→常盤塾だけで使える通貨があり、それぞれが台帳を持っていると仮定する。ビットコイン自体は常盤塾内で台帳にあるお金を書き換えてやり取りできるようにしたもの。そこに外の（たとえば）MBFでも使えるように現金と引き換える取引所が登場する。結果として今は、ある集団固有の通貨と現金のやり取りができるようになった状態。これが全部コンピューターの中で行われている。

・常盤先生；ビットコインは軍票兌換を新しい仕組みでやっているということ？

・松永さん；ビットコインは分散台帳で片方で消えたら片方で出てくる仕組み。仕組みを作った人ならだれでも発行できることが問題。両替所で悪いことしようとしたらできちゃう。日銀のような信用がない。しかも何の価値もないものを海外と取引できるようになってしまった。

・古川さん；中央銀行的には、価値が上がったり下がったりするので通貨にはできない)

・常盤先生；もどきの位置づけのために、自分がどの位置に立って研究をしているのかそれを作ろうとしているのかを把握していないといけない。

常盤先生；次は鳥から学ぶ本？